



Won-Life

Group A

田島拓実
Tashima Takumi

小倉佳祐
Ogura keisuke

畔原大輝
Azehara Daiki

友野真綾
Tomono Maya

小嶋勇暉
Kojima Yuki

問題

背景：リハビリが必要となる高齢者の
要介護患者の増加

- 要介護度別にみた介護が必要となった主な原因
- 1位 認知症
- 2位 脳卒中
- 3位 高齢による衰弱

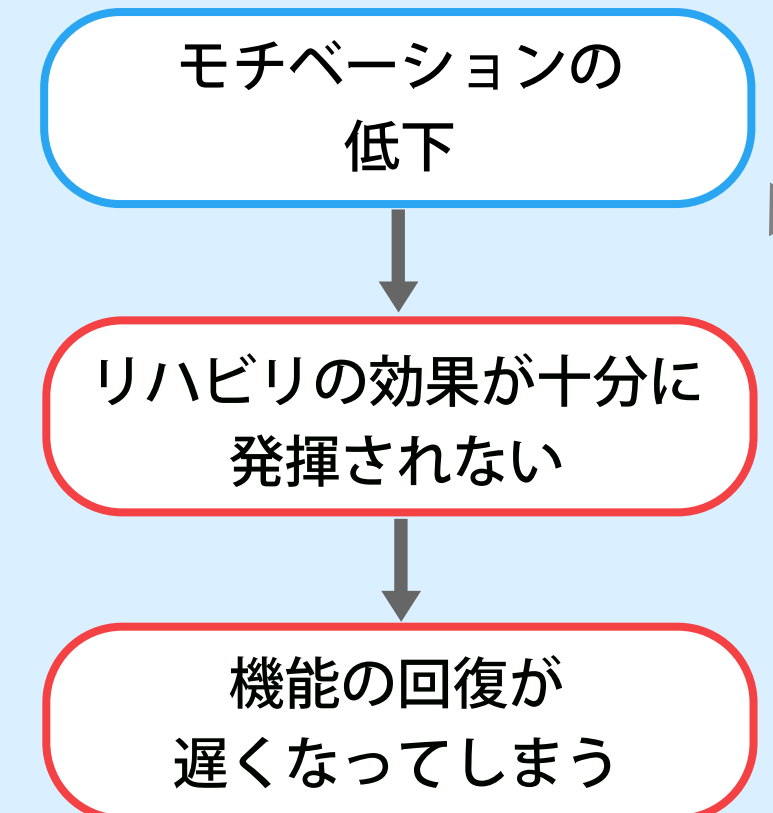
リハビリが必要

※厚生労働省 平成 28 年 国民生活基礎調査の概況 介護の状況

リハビリ

- 日々の効果や進捗が見えない
- 人によっては進捗が停滞する

モチベーション低下対策が必要



解決法

- リハビリに対するモチベーションを維持・向上するために、**リハビリの効果を患者に実感してもらう**
- 高齢者にもわかりやすい形式でリハビリの進捗を表示

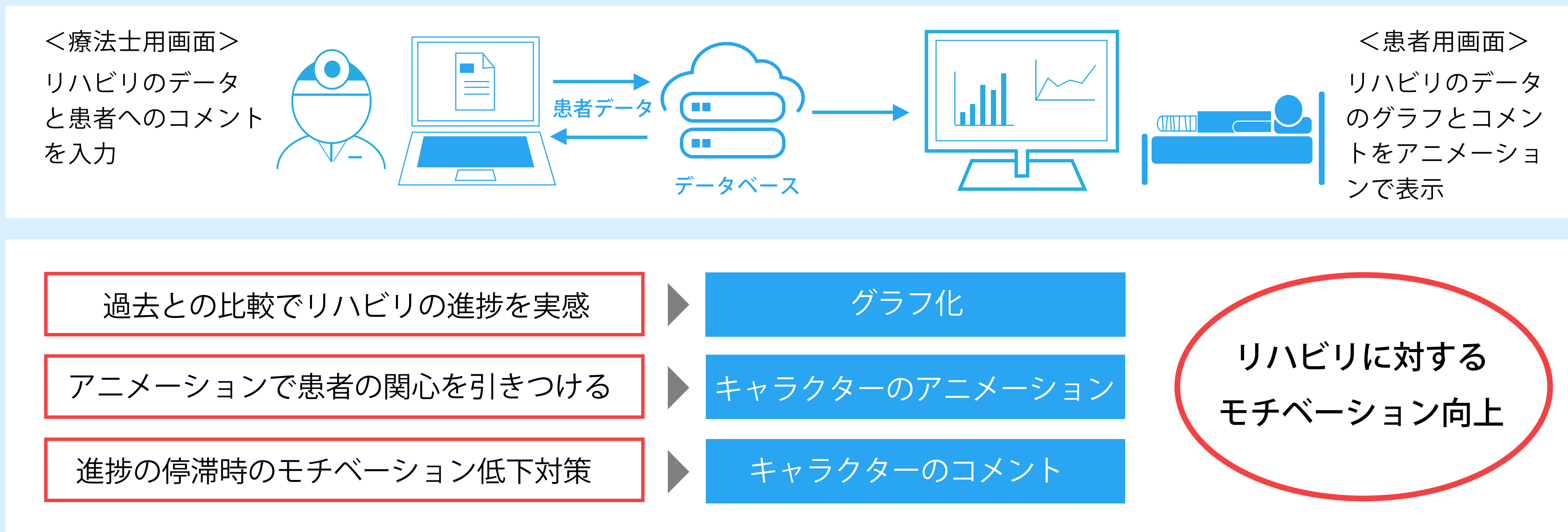
提案

高齢入院患者向けリハビリ支援システム



療法士が入力したデータを基に、リハビリの進捗をわかりやすく表示する

● システムの概要とねらい



● 療法士用画面

検索フォーム
患者 ID
患者名
検索

ID:123456
医療太郎 (イリョウタロウ)

FIM 評価項目
運動項目
▼セルフケア
▼排泄コントロール
▼移動
▼歩行・車いす
▼階段
認知項目
▼コミュニケーション
▼社会認知

項目名: 歩行・車いす
50m 移動している
Yes No
介護者不要
Yes No
杖・歩行補助具使用または車いす使用
Yes No

項目名: 歩行・車いす
一昨日の評価 6
昨日の評価 5
今日の評価 7
コメント
確定・更新
登録

- FIM によるリハビリの評価の簡易化
 - 評価項目の選択
 - 項目への Yes / No 回答で点数を自動で取得
 - 点数とコメントをデータベースに送信

FIM(機能的自立度評価票) とは

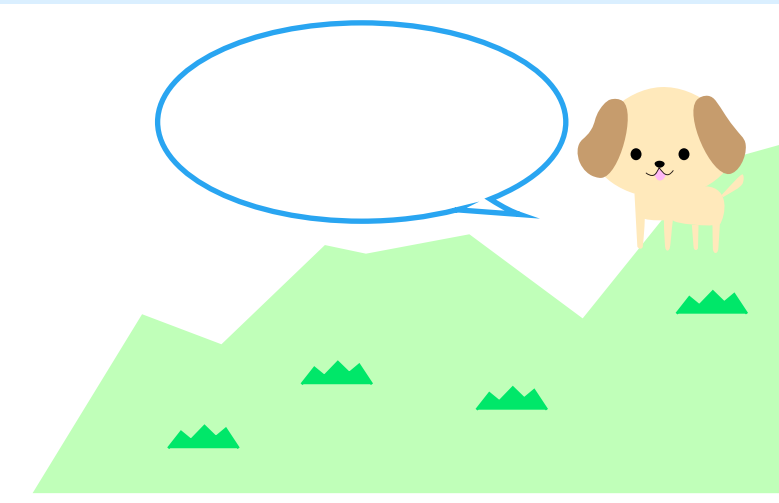
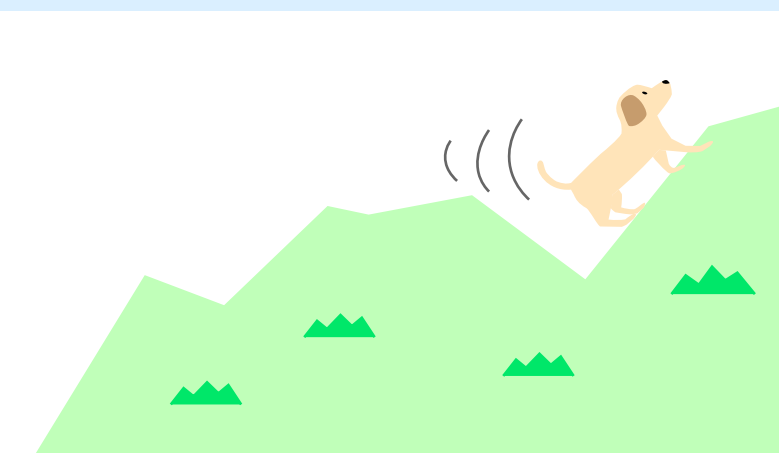
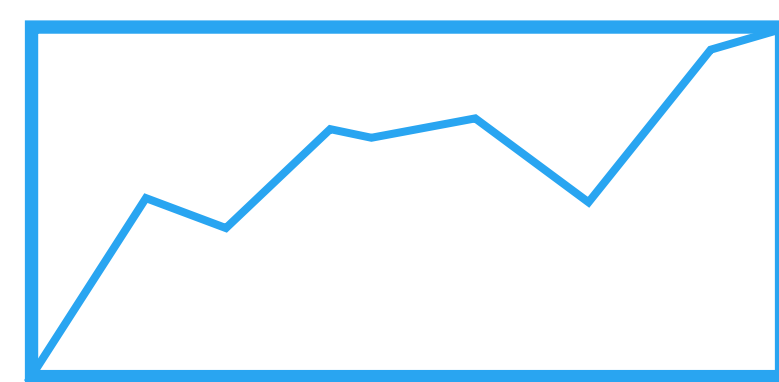
- 能力低下に対する介助量の判定をするための評価スケール
 - 全 18 項目あり、運動 13 項目、認知 5 項目
 - 各項目の動作の自立度によって 7 段階で評価

● 患者用画面



データベースにある療法士用画面からのデータを基に、山のように見立てたグラフを自動で作成

- データのグラフ化
 - 過去のデータとの比較
- 犬のキャラクターがグラフの山の上を歩くアニメーション
 - 登山をイメージ
 - 患者の関心を引く
- 療法士のコメントを画面上の犬のキャラクターが喋る形で表示
 - 声かけによる励まし

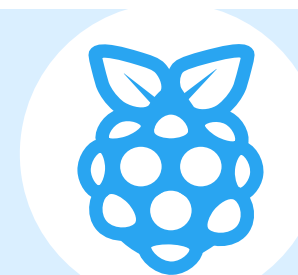


今後の展望

- 療法士用画面をタブレットで表示し、リアルタイムで評価とコメントを入力



- Raspberry Pi を使用して、病室のテレビに患者用画面の出力



- FIM の全ての項目を評価できるようにし、更に細かい進捗の表示



- UI の改良

